B5FK-6561-05 Z0

リカバリガイド

Windows 10

本書のバックアップについて

本書『リカバリガイド』は、ご購入時に C ドライブに格納されています。リカバリなどで C ドライブを削除した場合は、本書のデータも削除され、元に戻りません。事前に印刷（【Ctrl】+【P】キー）またはバックアップしておくことをお勧めします。
このマニュアルは、改善のため変更することがあります。最新のマニュアルは、インターネット上のマニュアル（http://www.fmworld.net/biz/fmv/manual/）をご覧ください。

FUJITSU

目次

本書をお読みになる前に 3
本書の表記 3

1. 必要に応じてお読みください

1.1 内蔵ディスク構成 5
1.2 ディスク作成 6
1.2.1 ディスク作成の考え方 6
1.2.2 ディスク作成前の準備 7
1.2.3 ディスクを作成する 8
1.3 内蔵ディスク全体をリカバリする、またはOSを切り替える 10
1.3.1 注意事項 10
1.3.2 内蔵ディスク全体をリカバリする場合の考え方 11
1.3.3 内蔵ディスク全体をリカバリする前の準備 12
1.3.4 内蔵ディスク全体をリカバリする 14
1.4 セットアップ 15
1.4.1 注意事項 15
1.4.2 セットアップする 16
1.4.3 セットアップ後のインストール状態 17

2. 補足情報

2.1 起動メニューの表示のしかた 21
2.1.1 ESPRIMO（Kシリーズを除く）、CELSIUSの場合 21
2.1.2 ESPRIMO Kシリーズの場合 21
2.1.3 LIFEBOOKの場合 22
2.1.4 ARROWS Tab の場合 22
2.1.5 ARROWS Tab Rシリーズの場合 22

本書をお読みになる前に

本書の表記

本書は2015年12月現在の内容です。本書をお読みになり、ご不明な点がございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ 本文中の記載

本文では、「内蔵ハードディスク」および「内蔵フラッシュメモリディスク」を総称して「内蔵ディスク」と記載しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

このマニュアルでは、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

なお、アプリケーション（ソフトウェア）の状態を変更した場合は、操作手順が異なることがあります。

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

■ 本書に記載している仕様とお使いの機種との相違

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。
ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ ユーザーアカウント制御ウィンドウ

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 光学ドライブ

本書では、DVD-R DL（8.5GB）またはDVD+R DL（8.5GB）に書き込みができる光学ドライブを搭載していることを前提に記述しています。お使いの機種やモデルによって、書き込みができる光学ドライブがない場合やタブレットの場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。外付け使用できる光学ドライブについては、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」
（http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/）をご覧ください。

- 本製品には、データをDVDに保存するためのアプリケーション「Roxio Creator LJ」がインストールされています。別売の外付け光学ドライブに添付の「Roxio Creator」をインストールする必要はありません。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="3">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Windows 10 Pro 64 ビット版</td><td rowspan="2">Windows 10 （64 ビット版）</td><td rowspan="2">Windows 10</td><td rowspan="2">Windows</td></tr>
<tr><td>Windows 10 Home 64 ビット版</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Professional 2013</td><td colspan="2">Office Professional 2013</td><td rowspan="3">Office</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Home & Business 2013</td><td colspan="2">Office Home & Business 2013</td></tr>
<tr><td>Microsoft Office Personal 2013</td><td colspan="2">Office Personal 2013</td></tr>
<tr><td>Corel® WinDVD®</td><td colspan="2">Corel WinDVD</td><td>WinDVD</td></tr>
<tr><td>Roxio Creator LJ</td><td colspan="3">Roxio Creator</td></tr>
</table>

■ 商標および著作権について

インテルおよびIntelは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
NVIDIA、Quadroは、NVIDIA Corporationの登録商標です。
NVIDIA、GeForceは、NVIDIA Corporationの登録商標です。
Corel、WinDVDはCorel Corporationおよびその関連会社の商標または登録商標です。
Roxio、Roxioのロゴ、Roxio CreatorはCorel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。
その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2015-2016

1.必要に応じてお読みください

1.1 内蔵ディスク構成

内蔵ディスクは、システムやOS、アプリケーションやデータなどを格納するCドライブで構成されています。

内蔵ディスクは、次の領域から構成されています。
- 「OS、アプリケーション（ソフトウェア）、ドライバー」などの領域と空き領域
- 「Windows RE領域」、「システム領域」

POINT

- 「Windows RE領域」、「システム領域」は、Windowsからは見えない領域です。

本製品の内蔵ディスク構成につきましては、富士通製品情報ページ内にある「リカバリデータとハードディスクの空き容量」をご覧ください。
URLは次のとおりです。

□ LIFEBOOK / ARROWS Tab

http://www.fmworld.net/biz/fmv/lifebook/recovery.html

□ ESPRIMO

http://www.fmworld.net/biz/fmv/esprimo/recovery.html

□ CELSIUS

http://www.fmworld.net/biz/celsius/recovery.html

1.2 ディスク作成

リカバリするためには、事前にディスク作成が必要です。

重要

- 本製品をご購入後、お手元にディスクがない場合は、できるだけ早くディスクを作成してください。
- バリューシリーズや、カスタムメイドでリカバリデータディスクを選択されていない時は、ドライバーズディスクは添付されていません。リカバリを行う前にディスクを作成してください。

1.2.1 ディスク作成の考え方

本製品にトラブルがあった場合に備えて、またはご購入時にインストールされていないアプリケーションを使用する場合に、次のディスクが必要になります。
次のディスクを作成します。

- リカバリデータディスク
  内蔵ディスクをご購入時の状態に戻す場合に使用します。

  POINT

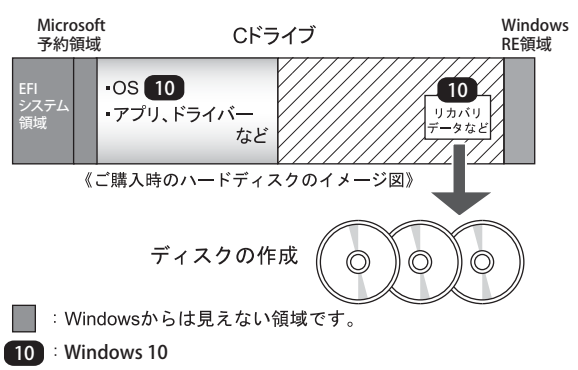
  - リカバリデータディスクの作成は、本製品1台につき1回のみ作成することができます。ただし、リカバリデータディスクをご購入されている方は、リカバリデータディスクの作成はできません。

- リカバリ起動ディスク
  内蔵ディスクをご購入時の状態に戻す場合に使用します。

- ドライバーズディスク
  アプリケーションやドライバーをインストールする場合に使用します。

  重要

  - ご購入時に添付されているすべてのアプリケーションやドライバーが、富士通製品情報ページ内にある「ドライバダウンロード」（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）に公開されているわけではありません。
    添付のアプリケーションやドライバーをインストールしたい場合は、「ドライバーズディスク」を作成してください。



1.2.2　ディスク作成前の準備

ディスクを作成する前に、次の準備を行ってください。

■ 型名を確認する

作成したディスクのレーベル面に記入します。あらかじめ、保証書などで本製品の型名を確認してください。

■ ACアダプターを接続する （ARROWS Tab、 LIFEBOOKの場合）

ディスクを作成するときには、必ずACアダプターを接続してください。

■ 光学ドライブを接続する （光学ドライブを内蔵していない場合）

ディスクを作成するときには、必ず光学ドライブを接続してください。

■ ディスクを用意する

- お使いになれるディスク
  DVD-R DL（8.5GB）またはDVD+R DL（8.5GB）が必要です。その他のディスクはお使いになれません。
- 推奨ディスク
  インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
- 必要なディスクの枚数
  必要なディスクの枚数は、「ディスクを作成する」の手順2（→P.8）で確認できます。

1.2.3 ディスクを作成する

1 「スタート」ボタン→「すべてのアプリ」の順にクリックまたはタップします。
アプリ画面が表示されます。

2 「FUJITSU-ディスク作成」の「ディスク作成」をクリックまたはタップします。
「ディスク作成」画面が表示されます。
「ディスクセット一覧」に「リカバリディスクセット」と表示されます。

3 必要枚数を確認し「次へ」をクリックまたはタップします。

4 ディスク一覧から作成したいディスクにチェックを付け、「次へ」をクリックまたはタップします。

POINT

- リカバリデータディスクやドライバーズディスクを作成するときは、DVD-R DL（8.5GB）またはDVD+R DL（8.5GB）のディスクが必要です。
- リカバリデータディスクの作成は、本製品1台につき1回のみです。
  リカバリデータディスクを作成後も、ディスク一覧に「リカバリデータディスク」と表示されますが、選択できなくなります。

5 画面の指示に従って、未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前と機種名（型名）を記入します。

POINT

- レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

6 手順5で名前を記入したディスクを光学ドライブにセットします。

POINT

- 「自動再生」ウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。

7 「開始」をクリックまたはタップします。
ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

POINT

- 「書き込み可能なディスクをセットしてディスクが認識されるまで10秒ほど待ってから「OK」ボタンをクリックまたはタップしてください。」と表示された場合、未使用のディスクがセットされていることを確認し、ディスクが認識されるまで（ディスクの回転が止まるまでの10秒ほど）待ってから「OK」をクリックまたはタップしてください。

8 ディスクへの書き込みが完了するとディスクが少しとび出す、またはトレーが開き、メッセージが表示されます。

●複数枚のディスクを作成する場合

2枚目以降のディスクを作成するよう、「(作成するディスク名) の作成を行います。」と表示されますので、書き込みが完了したディスクを取り出し、続けて次のディスクを作成します。手順5～手順7を繰り返し、枚数分を作成してください。

POINT

- 書き込みエラーが表示された場合

  「(ディスク名) の作成に失敗しました。」というメッセージが表示されたら、ディスクの不良が考えられますので、新しいディスクを用意し、「再試行」をクリックまたはタップしてください。なお、複数枚のディスクを作成している途中でエラーが出た場合は、手順4で、作成し直したいディスクにチェックして、ディスクの作成を続けてください。

9 「リカバリディスクセットの作成に成功しました。」と表示されたら、ディスクを取り出します。

10 「閉じる」をクリックまたはタップします。

ここで「完了」をクリックまたはタップすると、もう一度「ディスク作成」画面が表示されます。

11 「ディスク作成を終了します。よろしいですか？」と表示されたら、「OK」をクリックまたはタップします。

ディスク作成が終了します。

12 外付け光学ドライブを接続している場合は、取り外します。

以上でディスクの作成は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。

1.3 内蔵ディスク全体をリカバリする、またはOSを切り替える

内蔵ディスクをリカバリします。変更したドライブ構成を元に戻す場合や、Windows 10以外のOSからWindows 10 へOSを切り替える場合などにも、この作業が必要です。

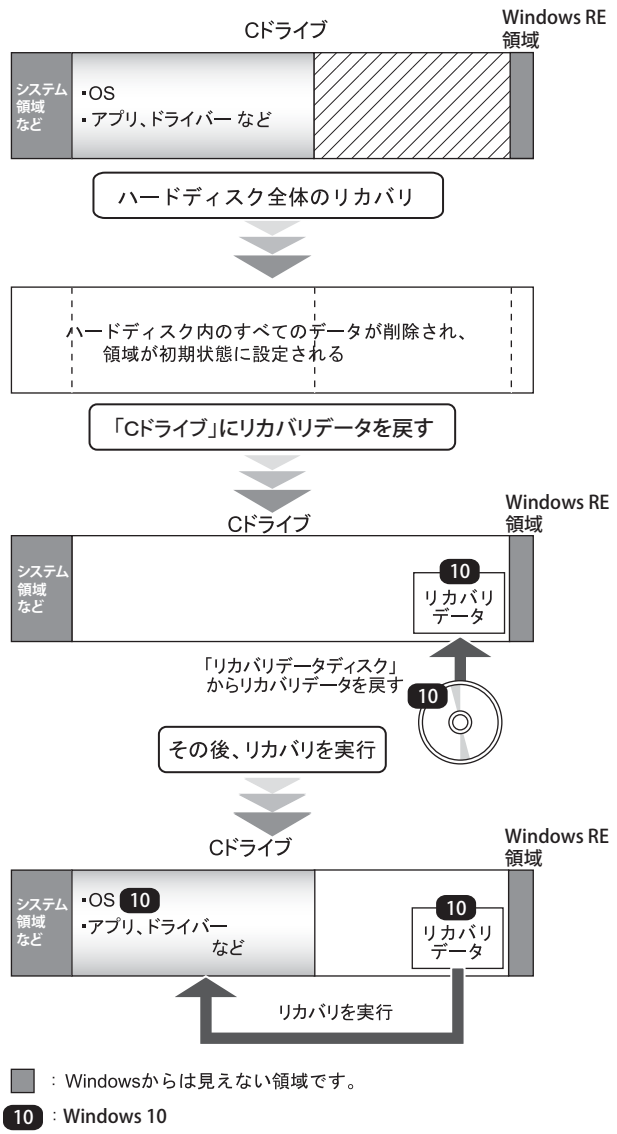
1.3.1 注意事項

- 内蔵ディスク全体をリカバリすると、内蔵ディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- 内蔵ディスク全体をリカバリするときは、リカバリするためのディスクが必要です。ディスクの作成方法については、「1.2 ディスク作成」（→P.6）をご覧ください。
- ARROWS TabやLIFEBOOKの場合は、リカバリする前に、必ずACアダプターを接続してください。
- セキュリティチップ搭載機種やセキュリティ機能内蔵機種でフォルダーやファイルの暗号化を行っている場合は、内蔵ディスク全体をリカバリする前に復元用のバックアップをしてください。復元用のバックアップデータがないと、データが読み出せないことがあります。これによる損害などの責任は一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。SMARTACCESS/Basicを添付している機種については、詳しくは、インターネット上のマニュアル『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- 本製品から、USBメモリ、外付けハードディスク、プリンタなどすべての周辺機器を、必ず取り外してください（拡張クレードル、スリムキーボード、キーボードドッキングステーション、光学ドライブを除く）。
- デバイスドライバーのインストールが必要な機器の場合、リカバリ作業に必要な機器であっても、リカバリ作業時に接続しているとリカバリに失敗する場合があります（例：指紋認証／手のひら静脈センサー付きキーボード、タッチ機能付きディスプレイなど）。この場合は、デバイスドライバーのインストールを必要としない機器を別途ご用意いただき、リカバリを実施してください。
- 外部メディアを接続したまま、リカバリ作業やハードディスクの領域設定を行うと、外部メディアに保存されているデータが削除される場合があります。
- CELSIUS Wシリーズで内蔵ディスクを増設している場合は、増設した内蔵ディスクを取り外してから実行してください。
- モデルやカスタムメイドの選択によって、内蔵ディスク全体をリカバリした後に、アプリケーションやドライバーのインストールが必要になります。詳しくは「1.4.3 セットアップ後のインストール状態」（→P.18）をご覧ください。
- グラフィックスカードを選択し、ご購入時に添付のディスクを使ってハードディスク全体のリカバリを行う場合、本体ではなく、グラフィックスカードのデジタルディスプレイコネクタにディスプレイを接続してリカバリしてください。アナログディスプレイを接続するときは、デジタルディスプレイコネクタに別売のDVI-VGA 変換アダプタを接続してください。
- LIFEBOOKでタッチパネル搭載機種の場合、タッチパネルでの操作はできません。キーボードまたはマウスで操作してください。
- ARROWS Tabの場合、タッチパネルで操作するとき、タップした位置と画面上のマウスポインターの位置が多少ずれる場合があります。画面上のマウスポインターが操作したい場所にあることを確認しながら操作を進めてください。
- 内蔵ディスク全体をリカバリするには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。
- OSを切り替えることにより今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。

1.3.2　内蔵ディスク全体をリカバリする場合の考え方

内蔵ディスク全体をリカバリすると、いったん内蔵ディスク内のすべてのデータが削除され、領域がご購入時の状態やOSを切り替えた初期状態に設定されます。続いてCドライブにリカバリデータを戻し、その後リカバリを実行します。

■ Windows 10にリカバリする場合



1.3.3　内蔵ディスク全体をリカバリする前の準備

内蔵ディスク全体をリカバリする前に、次の準備を行ってください。

■ ディスクを用意する

- リカバリ起動ディスク
- ドライバーズディスク
- リカバリデータディスク

■ ACアダプターを接続する （ARROWS Tab、 LIFEBOOKの場合）

内蔵ディスク全体をリカバリするときには、必ずACアダプターを接続してください。

■ 光学ドライブを接続する （光学ドライブを内蔵していない場合）

光学ドライブを内蔵していない機種で、内蔵ディスク全体をリカバリするときには、必ず光学ドライブを接続してください。

■ BIOSの設定を確認する

BIOSの設定をご購入時から変更している場合は、ご購入時の設定に戻します。
また、OSを切り替える場合は、リカバリを行う前に、必ず、次の「□ Windows 10の場合のBIOS設定」（→P.13）を確認してください。BIOSセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

重要

- 設定が異なると、Windows 10が起動しなかったり、正常にリカバリが完了しないので、必ず確認してください。

□Windows 10の場合のBIOS設定

POINT

- 「BIOSパスワード」や「管理者用パスワード」を設定されている場合は、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- 「セキュアブート機能」または「Secure Boot Option」を変更する場合は、「管理者用パスワード」を設定してください（ESPRIMOおよびCELSIUSを除く）。

1.BIOSセットアップ画面の「終了」メニューから「標準設定値を読み込む」を実行します。

ARROWS Tab Rシリーズの場合、BIOSセットアップ画面の「EXIT」メニューから「Load Setup Defaults」を実行します。

2.次にメニューから設定項目を選択し、次のとおり、設定してください。

- ESPRIMO（Kシリーズを除く）、CELSIUSの場合

メニュー	設定項目	設定値
詳細	ネットワークスタック	
	ネットワークスタック	使用する
	TPM（セキュリティチップ）設定	
	セキュリティチップ	有効にする[注1]
セキュリティ	セキュアブート設定	
	セキュアブート機能	使用する

- ESPRIMO Kシリーズの場合

メニュー	設定項目	設定値
詳細	起動設定	
	互換性サポートモジュール[注2]	使用しない
	TPM（セキュリティチップ）設定	
	セキュリティチップ	使用する[注1]
セキュリティ	セキュアブート設定	
	セキュアブート機能	使用する

注1 ： ESPRIMO D586/M（標準モデル/ヘルスケアモデル/国際エネルギースタープログラム対応モデルでセキュリティチップ未選択の場合）およびD556/M、Q556/M、K556/Mの場合に設定いただけます。この場合、セキュリティチップが搭載されていなくても、チップセット内蔵のセキュリティ機能としてIntel PTTをもっており、Windows 10はIntel PTTに対応していますので、セキュリティチップの設定を有効にすることが可能です。

注2 ： 本設定は、[セキュリティ]-[セキュアブート設定]-[セキュアブート機能]を「使用しない」に設定している場合のみ変更可能です。

- LIFEBOOK、ARROWS Tab（Rシリーズを除く）の場合

メニュー	設定項目		設定値
詳細	起動設定		
		高速起動	使用する
		互換性サポートモジュール[注2]	使用しない
セキュリティ	セキュアブート設定		
		セキュアブート機能	使用する

注2 ： 本設定は、[セキュリティ]-[セキュアブート設定]-[セキュアブート機能]を「使用しない」に設定している場合のみ変更可能です。

- ARROWS Tab Rシリーズの場合

メニュー	設定項目		設定値
Advanced			
		Fast Boot	Enabled
		CSM[注3]	Disabled
Security	Secure Boot Configurations		
		Secure Boot Option	Enabled

注3 ： 本設定は、[Security]-[Secure Boot Configurations]-[Secure Boot Option]を「Disabled」に設定している場合のみ変更可能です。

1.3.4　内蔵ディスク全体をリカバリする

重要

- 内蔵ディスク内のすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

1 起動メニューを表示します。

お使いの機種によって操作が異なります。詳しくは「2.1 起動メニューの表示のしかた」（→P.22）をご参照ください。

2 「リカバリ起動ディスク」をセットします。

● ESPRIMO（Kシリーズを除く）およびCELSIUSの場合

1. ディスクをセットしたまま、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して、本製品の再起動を行い、続けて【F12】キーを押します。
2. 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。

3 データの読み込みが終了し光学ドライブが停止してから、カーソルキーでディスクをセットした光学ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。

そのまましばらくお待ちください。「ディスク全体をご購入時の状態に戻す」が表示されます。

POINT

- ESPRIMO（Kシリーズを除く）およびCELSIUSの場合は「UEFI：[光学ドライブ名] 」を選択してください。

4 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックまたはタップし、「次へ」をクリックまたはタップします。

5 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、ディスクの確認の後、

1. ハードディスクの領域を設定する
2. リカバリディスクセットを復元する
3. リカバリを実行する
4. 最終処理を実行する

の順に進めます。画面のメッセージで指定されたディスクをセットして、操作を進めてください。

「リカバリが完了しました。」というメッセージが表示されたら手順6に進んでください。

6 ディスクを取り出し、「完了」をクリックまたはタップします。

製品本体の電源が自動的に切れます。

7 外付け光学ドライブを接続している場合は、取り外します。

以上で内蔵ディスク全体をリカバリする操作は終了です。

続けて、「1.4 セットアップ」（→P.16）をご覧になり、セットアップを行ってください。

なお、電源は30秒以上待ってから入れてください。

1.4 セットアップ

1.4.1 注意事項

- セットアップする前に、必ずACアダプターを接続してください（ARROWS Tab、LIFEBOOKの場合）。
- セットアップが完了するまでは、次のものを接続または変更しないでください。セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。
  ・周辺機器
  ・拡張カード
  ・2台目のディスプレイ
  ・BIOSの設定
  ・拡張クレードル（ARROWS Tab Rシリーズの場合）
- LIFEBOOKでタッチパネル搭載機種の場合、タッチパネルでセットアップの操作はできません。キーボードまたはマウスで操作してください。
- セットアップが完了するまでは、周辺機器（キーボードドッキングステーション、拡張クレードル、スリムキーボードを除く）を接続しないでください（ARROWS Tab Rシリーズのみセットアップが完了するまでは、拡張クレードルを接続しないでください）。セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。
- デバイスドライバーのインストールが必要な機器の場合、リカバリ作業に必要な機器であっても、リカバリ作業時に接続しているとリカバリに失敗する場合があります（例：指紋認証／手のひら静脈センサー付きキーボード、タッチ機能付きディスプレイなど）。この場合は、デバイスドライバーのインストールを必要としない機器を別途ご用意いただき、リカバリを実施してください。
- 外部メディアを接続したまま、リカバリ作業やハードディスクの領域設定を行うと、外部メディアに保存されているデータが削除される場合があります。
- ARROWS Tabの場合、タッチパネルで操作するとき、タップした位置と画面上のマウスポインターの位置が多少ずれる場合があります。画面上のマウスポインターが操作したい場所にあることを確認しながら操作を進めてください。
- セットアップ中は、電源を切らないでください。
- Windowsセットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちにキーを押したり、画面をクリックまたはタップすると、Windowsセットアップが完全に行われない場合があります。ウィンドウが完全に表示されてから、キーボードまたはフラットポイント（マウス）で操作してください。
- Windowsセットアップが進められなくなった場合は、電源ボタンを4秒以上押して、製品本体の電源を一度切り、セットアップをやり直してください。セットアップがやり直せない場合は、リカバリを行ってください。リカバリについては、「1.3 内蔵ディスク全体をリカバリする、またはOSを切り替える」（→P.10）をご覧ください。
- Windowsセットアップの途中で、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、お使いのディスプレイに合わせたドライバーをインストールしてください。
- マルチディスプレイ機能搭載機種の場合は、セットアップを行い、ディスプレイドライバーをインストールした後に、2台目のディスプレイを接続してください。
  マルチディスプレイ機能については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
- ご購入時に添付のリカバリデータディスク（モデルやカスタムメイドの選択によって添付されます。）からリカバリした場合は、セットアップに時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

1.4.2 セットアップする

1 製品本体の電源を入れます。

自己診断（POST）が始まります（「デバイスを準備しています」と表示されます）。画面が表示されるまで、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。絶対に電源を切らずにそのままお待ちください。

自己診断（POST）が終わると「Windowsのセットアップ」画面が表示されます。その後、自動的に「Windowsのセットアップ」が進行します。途中何度か本製品が再起動しますが、電源を切らずにお待ちください。「○○%終了しました」という進捗状況が数字で表示されます。「100%終了しました。」と表示されても、その後もさらに自動的に再起動してセットアップを継続しますので、電源を切らずにお待ちください。

2 メッセージに従って、画面をクリックまたはタップまたはソフトウェアキーボードで操作します。

「こんにちは」の画面が表示されたら、画面のメッセージに従い入力し、「次へ」をクリックまたはタップします。

その後、PC名、ユーザー名、およびパスワードを入力する画面が表示されます。また、インターネットに接続している場合は、Microsoftアカウントを設定する画面が表示されます。MicrosoftアカウントはWindowsを使用するときのアカウントで、インターネットのサービス（一部のアプリケーション、Windowsストア、クラウドサービスなど）を利用するときのアカウントにもなります。必要に応じて設定してください。
ソフトウェアキーボードが表示されていない場合は、入力部分をクリックまたはタップしてください。

入力可能な文字と文字数は、次のとおりです。
・ユーザー名：12文字以内の半角英数字（a～z、A～Z、0～9）で入力してください。数字は、英字と組み合わせてください。
・パスワード：半角英数字（a～z、A～Z、0～9）で入力してください。大文字、小文字は区別されます。

Windowsセットアップが完了すると、Windows 10のデスクトップが表示されます。

重要

- Microsoftアカウントの設定は、ネットワーク管理者がいる場合は、指示に従って操作してください。

これで、セットアップが完了しました。

1.4.3　セットアップ後のインストール状態

モデルやカスタムメイドの選択、また、リカバリの方法やリカバリに使用したリカバリデータディスクによって、セットアップ後のアプリケーションやドライバーのインストール状態が異なります。必要に応じて、Officeやドライバーをインストールしてください。

■アプリケーションやドライバーのインストール状態

○：インストール済　×：インストール未

リカバリの方法、リカバリに使用したディスク		Office製品やドライバーのインストールの状態
A	「1.2 ディスク作成」（→P.6）で作成したリカバリデータディスク	×
B	ご購入時に添付のリカバリデータディスク（注）	×

注：モデルやカスタムメイドの選択によって添付されます。

ご購入時に添付のディスクを使ってリカバリを行った場合は、Office製品またはドライバーがインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

□ESPRIMO Dシリーズ／Kシリーズ、 CELSIUS Jシリーズ／Wシリーズ

- 上記の表A、Bの方法でリカバリした場合
  Office製品やドライバーはインストールされていません。「■ アプリケーション、ドライバーなどのインストール」（→P.19）に進んでください。

□LIFEBOOK、 ESPRIMO Qシリーズ

- 上記の表A、Bの方法でリカバリした場合
  - Office搭載モデルの場合
    Office製品はインストールされていません（ドライバーはインストール済みです）。
    - LIFEBOOKおよびESPRIMO Qシリーズで24時間モデルではない場合
      「■ Officeのインストール（Office搭載モデルの場合）」（→P.21）に進んでください。
    - ESPRIMO Qシリーズで24時間モデルの場合
      「お手入れナビ」がインストールされていません。「■ アプリケーション、ドライバーなどのインストール」（→P.19）の「6 「ドライバーズディスク」をセットします。」（→P.20）に進んで「お手入れナビ」をインストールしてください。
  - Office搭載モデル以外で24時間モデル以外の場合
    ドライバーはインストール済みです。この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

□ARROWS Tab

- 上記の表A、Bの方法でリカバリした場合
  - Office搭載モデルの場合
    「■ Officeのインストール（Office搭載モデルの場合）」（→P.21）に進んでください。
  - Office搭載モデル以外の場合
    ドライバーはインストール済みです。この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

■ アプリケーション、 ドライバーなどのインストール

ESPRIMO Dシリーズ／KシリーズやCELSIUSの場合、ディスプレイのドライバーなどをインストールする必要があります。次の手順へ進んでください。

1 「ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- 「ドライバーズディスク」がお手元にない場合は、「1.2 ディスク作成」（→P.6）をご覧になり、作成してください。
- 「ドライバーズディスク」をセットすると、「自動再生」通知が表示されることがあります。その場合は、「メディアからのプログラムのインストール/実行」の「DRVCDSRC.exeの実行」を選択してください。

2 お使いのドライバーを選択します。
■ESPRIMO Dシリーズ、Kシリーズ、CELSIUS Jシリーズ、Wシリーズの場合
●グラフィックスカードを選択した場合
1. お使いの機種とOSを選択し、「種別」に「すべて」を選択します。
2. ドライバーを選択します。
「NVIDIA ディスプレイドライバー 64ビット版」をクリックまたはタップします。

●グラフィックスカードを選択しなかった場合
1. お使いの機種とOSを選択し、「種別」に「すべて」を選択します。
2. ドライバーを選択します。
「インテル(R) ディスプレイドライバー 64ビット版」をクリックします。

3 「インストール方法の確認(S)」をクリックします。
インストール方法が書かれたテキストファイルの一覧が表示されます。テキストファイルでインストール方法をご確認のうえ、ドライバーをインストールしてください。

POINT

- ドライバーのインストール前に「新しいハードウェアの検出ウィザード」ウィンドウが表示される場合があります。この場合は「キャンセル」をクリックまたはタップしてください。

4 設定したパスワードを入力し、「→」をクリックまたはタップします。
Windowsが起動します。

5 ディスクを取り出します。

●24 時間モデル以外の場合

・Office搭載モデルの場合

これでセットアップが完了しました。この後は「■ Officeのインストール（Office搭載モデルの場合）」（→P.21）をお読みください。

・Office搭載モデル以外の場合

これでセットアップが完了しました。この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

●24 時間モデルの場合

「お手入れナビ」をインストールする必要があります。次の手順へ進んでください。

6 「ドライバーズディスク」をセットします。

「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- 「ドライバーズディスク」をセットすると、「自動再生」通知が表示されることがあります。その場合は、「メディアからのプログラムのインストール/ 実行」または「プログラムのインストール/ 実行」の「DRVCDSRC.exeの実行」を選択してください。

7 お使いの機種とOSを選択後、「種別」に「任意」を選択します。

8 「お手入れナビ」をクリックまたはタップします。

9 「インストール方法の確認(S)」をクリックします。

インストール方法が書かれたテキストファイルの一覧が表示されます。テキストファイルで「お手入れナビ」のインストール方法をご確認のうえ、「お手入れナビ」をインストールしてください。

10 設定したパスワードを入力し、「→」をクリックまたはタップします。

Windowsが起動します。

11 ディスクを取り出します。

これでドライバーのインストールが完了しました。

Office搭載モデルの場合は「■ Officeのインストール（Office搭載モデルの場合）」（→P.21）に進んでください。

この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

■ Officeのインストール （Office搭載モデルの場合）

リカバリを行った場合は、Office製品がインストールされていません。次の操作が必要です。
マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。

http://www.office.com/jppipcsetup/

この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

2.補足情報

2.1 起動メニューの表示のしかた

ここでは、「リカバリ起動ディスク」を起動するときに必ず表示する必要がある、起動メニューの表示のしかたを説明します。
「リカバリ起動ディスク」とは、リカバリの実行やハードウェアなどの診断をするアプリケーションです。

POINT

- BIOSセットアップの「起動メニュー」が「使用しない」の設定になっている場合、起動メニューは表示されません（ESPRIMO、CELSIUSの場合）。設定を「使用する」に変更してください。BIOSセットアップの操作方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。
- 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を切って、もう一度操作してください。

2.1.1 ESPRIMO（Kシリーズを除く）、CELSIUSの場合

1. 【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。
2. 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。
   起動メニューが表示されます。

POINT

- ESPRIMO Qシリーズ、CELSIUSでBIOSのパスワードを設定している場合、BIOSのパスワードを入力する必要があります。

2.1.2 ESPRIMO Kシリーズの場合

1. 輝度ボタン【+】を押したまま、本製品の電源を入れます。
2. 電源ランプの点灯を約1秒確認したら、輝度ボタン【+】を離します。
   起動メニューが表示されます。

2.1.3 LIFEBOOKの場合

1 【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら【F12】キーを離します。
起動メニューが表示されます。

POINT

- 手のひら静脈や指紋を登録した場合は、認証を行ってください。
- 高速起動が有効になっているためUSBキーボードが使えない場合があります。内蔵キーボードを使って操作してください。

2.1.4 ARROWS Tab（Rシリーズを除く）の場合

1 ショートカットボタンを押したまま、本製品の電源を入れます。

2 起動メニューが表示されたら、指を離します。

2.1.5 ARROWS Tab Rシリーズの場合

1 ボリュームダウンボタンを押したまま、本製品の電源を入れます。

2 Boot Menuが表示されたら、指を離します。

リカバリガイド
B5FK-6561-05 Z0-00

発 行 日　2016年2月
発行責任　富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。